

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 036	提案機関名 JA全農かながわ 畜産部
要望問題名 サシバエ対策	
要望問題の内容 (拝啓、内容、対象地域及び規模(面積、数量など)) 家畜の吸血をすることで伝染病を媒介するサシバエの害を最小限に抑え込むことが今後、家畜伝染病防疫の観点からも重要になってくると思われる。 堆肥の利用が減少しているなか、畜産農家で滞留している堆肥(未熟・完熟)はサシバエの恰好の増殖場となっており、捕虫シートや散布薬などの対策資材はあるが、発生源への効果的な対策技術の開発も必要と考える。 5/27(火)の農業新聞にサシバエへの寄生蜂資材の記事があり、非常に興味深く内容確認した。 サシバエ対策について、有効な技術が他にないか、この寄生蜂の効果も含めて研究を進めていただきたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	堆肥舎等におけるサシバエ対策は、施設の床や壁面に滞留または固着した糞を除去などの環境改善のほか、堆肥の切り返しによる発酵熱で卵を殺滅、IGR剤の散布や寄生蜂によりサナギの羽化を阻害するなどの方法が提唱されています。提案のありました新たなサシバエ対策については、今後も情報収集に努めてまいります。対策に取り組みたい畜産農家がありましたら、関係機関と連携して現地で支援してまいります。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			